

会報

第23号

2025年 8月

目次

巻頭言	2・3
2024年度友の会活動報告	3・4
友の会22年のあゆみ	5~7
2025年度企画展のご案内	8



会報 第3号 2005年3月	会報 第4号 2005年6月	会報 第5号 2005年9月	会報 第6号 2006年3月	会報 第7号 2007年8月
会報 第8号 2008年3月	会報 第9号 2009年3月	会報 第10号 2010年3月	会報 第11号 2011年3月	会報 第12号 2012年3月
会報 第13号 2013年3月	会報 第14号 2014年3月	会報 第15号 2015年3月	会報 第16号 2016年3月	会報 第17号 2017年3月
会報 第18号 2018年3月	会報 第19号 2019年3月	会報 第20号 2020年7月	会報 第21号 2023年6月	会報 第22号 2024年6月



ごあいさつ

福島県立美術館 館長 高橋英子

友の会の皆様、こんにちは。

福島県立美術館長に就任して、今年で2年目となります。昨年度は、友の会の事業にいくつか参加させていただきました。新型感染症の影響で中止となり、久しぶりの開催となった研修旅行では、酒井名誉館長の講話や小泉五浦美術館館長の軽快なトークに、私自身、大変楽しませていただきました。準備にご苦労されたスタッフの方に感謝申し上げます。

また、バザーやコンサートなど、友の会の事業に多くの方々が参加されることに、大変驚きました。これもひとえに、友の会が長い間、活動してきた成果であり、皆様の活動が多くの方々に認識されている結果だと思います。

今年度、県立美術館では、2月に開催される大ゴッホ展を始め、大規模な展覧会が複数開催されます。多くの来場者が見込まれるため、日時指定制のチケット導入や駐車場の使用制限など、混雑緩和に向けて検討を進めているところです。県内外の多くの方に県立美術館を知ってもらう大きなチャンスでありますので、来館された皆様が満足できるよう円滑な運営に努めてまいる所存です。

引き続き、皆様に愛される美術館として、様々な美術館事業に取り組んでまいりますので、友の会の皆様には、変わらぬ御支援・御協力をどうぞよろしくお願いします。



会長退任のあいさつ

友の会 前会長 丹治 孝子

先の役員会で、今まで何回かお願いしていた会長職の退任を役員の皆様に受け入れていただきました。

力不足の私が今までお役を続けて来れたのも、何か行事があるたびに色々と準備を行い、スムーズに事を運んでくれた役員の皆さんのがえがあったからで（特に研修旅行ではプランが決まるとき直ぐに下見に出かけ、スケジュールを

練り、バスの手配までしてくださった事には感謝の気持ちがいっぱいでした。）、そして何よりも会員の皆様のご協力があったからこそと思っています。

これまで本当にありがとうございました。これからも友の会員として活動に参加し、また皆様とお会いできることを楽しみにしたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。





会長就任のご挨拶

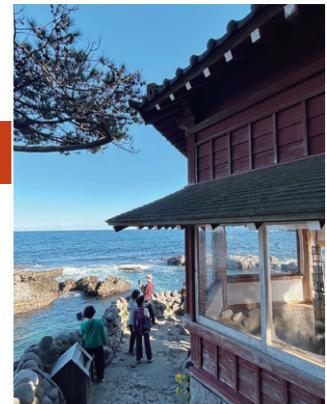
友の会 会長 舟木 藤弘

今年度の福島県立美術館友の会定期総会を経て、会長の任に就くこととなりました。当会創設以来20年余りにわたり会長を務められた丹治孝子会長を引き継ぐことは非才の身には甚だ重く感じられる大任ですが、精いっぱい頑張っていきたいと存じます。

友の会の目的は会則で「美術を愛する人たちが集い、美術館の活動へ協力し、美術館の支援を得ながら、会員どうしの親睦を深め、本県の文化の向上に努めます。」と謳われています。こ

れまで築き上げられた友の会活動の土台のもとに、「美術を愛する人の集い」が増え、「会員どうしの親睦」の輪をさらに広げていくことが出来たら素晴らしいな！私はそんな思いを持ちながら努めてまいりたいと思っております。

これからも、友の会会員皆さん、県立美術館館長はじめ美術館の皆さんには、引き続きご支援ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和6年度（2024年度）活動報告

● 定期総会 6月22日(土)

● 美術絵画鑑賞講座（第1回）6月22日(土)

- ・「福島の美術家たち 2024」
本県出身、ゆかりの作家について学芸員から解説をいただきました。

● 美術映画鑑賞講座 8月（福島フォーラムで上映）

- ・「ブルーピリオド」国内産難関の東京芸大美術学部を目指す
青年の奮闘劇を鑑賞しました。

● 美術絵画鑑賞講座（第2回）9月16日(月・祝日)

- ・トークフリーデーに合わせ対話形式の鑑賞会を実施。
当美術館選りすぐりのコレクションについて
参加者が自由に感想を述べあいました。



● 美術研修旅行 11月8日(金)

- ・5年ぶりの研修旅行は茨城県の天心記念五浦美術館へ

● アートチャリティーバザー 12月8日(日)

- ・今年も多くの来場者で賑わいました

● ミュージアムコンサート 2025年3月2日(日)

- ・今回は初めての講堂での演奏会でしたが満席の会場となり
美しい演奏を楽しんでいただけました。



◆ 「Curry and Spice dishes 笑夢」さんでドリンクサービス！会員特典登場！

美術館レストランの「笑夢」様のご厚意により、友の会会員にドリンクサービスの特典をいただけることになりました。会員の皆さん、笑夢さんに是非お誘いあわせでお食事にいらしてください！

2024年度の活動から

美術鑑賞 講座① 6月22日(土)

1984年7月に開館した当美術館は、40周年を迎えます。友の会では、開館40周年記念の2つの企画展に焦点を当て、第1回目講座は「福島の美術家たち 2024」、第2回目講座は「みんなの福島県立美術館 その歩みとこれから」を企画しました。

第1回目講座は、福島県出身・ゆかりの美術家紹介する「福島の美術家たち 2024」です。2024年6月22日、友の会通常総会後、

講義室で宮武弘学芸員に講義形式の解説をいただきました。企画展は「福島の美術家たち」のシリーズ（1987, 1989, 1991）34年を経た企画展で、日本画・洋画・版画・立体・工芸の5つの分野から約15名の美術家を取り上げ説明いただきました。15名の皆様が参加し、解説後は、それぞれに企画展示室で普段は見られない美術家40名の147秀作品を鑑賞しました。（北條）

**美術映画
鑑賞講座**
8月

今年度美術映画鑑賞講座では、「ブルーピリオド」(福島フォーラム 1・2・8/9～9/13)を推奨しました。主なストーリー紹介します。生きている実感が持てなかった青年が、初めて絵を描き面白さに気付いた高校2年生から、国内最難関の東京藝術大学美術学部を目指し絵画科油画専攻に現役合格するまで、奮闘する姿を描いた作品です。芸術とは才能なのか、天才とは誰なのか、才能あふれるライバルたちの出現、背中をそっと押してくれる高校の美術教師や美術部の先輩、そんな中、主人公の情熱、努力、苦しみ、葛藤が人生扉を開け、そして「自分自身だけの絵、自分らしい絵」に挑んでいく。使用された現役のアーティストたちの絵画作品は言うまでもなく、1次試験の「自画像」、2次試験「ヌード」などの絵を描く実際の熱氣や醍醐味もスクリーンから伝わって来ました。藝術卒で多ジャンル現代美術家である会田誠さんが1次試験の選考委員として出演しています。なお、「ブルーピリオド」の題名は、初めて描いた「早朝の渋谷の街の風景が、青く見える風景」、「将来の自分にしか見えない世界のイメージ」です。努力を武器にひたむきに生きる青春が感動を与えます。(北條)

**実技講座
藍染体験**
9月6日(金)

今回の実技講座では、藍染を体験しました。絞りの柄の不思議、様々な技法を体験し、自分の求める色を探す楽しさを充分に味わうことができました。体験する中で驚かされたのは、藍の強い香りです。

また、発色のよさに魅力を感じました。昔から引き継がれてきた日本の藍色の魅力に今更ながら深く感動をおぼえました。染め上がったショッピングバッグは、上々の仕上がりでした。

この実技講座を通して、染色の奥深さに触れることができました。藍の魅力をさらに深く触れてみたいと思いました。

**美術鑑賞
講座②**
9月16日(月・祝)

美術館のトークフリーデーに合わせて、友の会の鑑賞講座を開催しました。鑑賞したのは「開館40周年記念展② みんなの福島県立美術館 その歩みとこれから」。この展覧会は開館40年に合わせて、コレクションの選りすぐりを展示をし、改めて美術館のコレクションを楽しんでいただこうというものでした。

エントランスホールに6名の会員が集まりました。斎藤学芸員と堀学芸員が案内役。まずはそれぞれが自由に展覧会を鑑賞し、好きな、あるいは気になる作品を選びます。その後、それぞれが作品の前で、どこが気に入ったのかを自由に話しました。それを聞きながら、参加者はさらに自分の感想を重ねたり、疑問を出したり、知っていることを伝えたりしながら、鑑賞を深めていきます。絵の見方は人それぞれ。違う感想にびっくりすることもあります。話すことで鑑賞が深まっていくことってやっぱりあるんですね。そして周りを気にすることなく、絵の前で話をするのはとても楽しいものだと実感しました。

鑑賞後、学芸員の方々含めて茶話会もやりました。和気藹々と楽しい時間を過ごすことができました。今後も是非続けていければと思います。(荒木)

福島県立美術館友の会プラス
Instagramアカウント開設しました
「友の会プラス(+)」は、福島県立美術館「友の会」の中に設けられた、家族連れや若い世代の方々にも美術館をもっと身近に楽しんでいただくための部会です。アカウント: tomonokai.plus

研修旅行
11月8日(金)

友の会会員と家族や友人等25名で、中型バスで、岡倉天心ゆかりの「茨城県天心記念五浦美術館」へ行って参りました。午前9時に県立美術館を出発し、日程や美術館の説明を聞いたり、おしゃべりをしたり、秋の景色をながめたりしているうちに、常磐道の勿来ICを出て、海の見える高台の素敵な庭園に囲まれた美術館に着きました。

美術館では、小泉晋弥館長様が、「岡倉天心が五浦に住むようになったいきさつ」「日本美術院を設立し、横山大観・下村觀山・菱田春草等を五浦に呼び寄せた経緯」「五浦美術館について」、「企画展 猫を愛でたいのこと」、「天心記念室」等について、丁寧にわかりやすく、解説してくださいました。その後に、それぞれ自由に鑑賞しました。

企画展「猫を愛でたい」は、愛らしい姿や可愛い顔・鋭い目つき等の猫が描かれている浮世絵や近現代の絵画を集めた作品展で、「こんなところに・こんな猫が・こんな様子で…」と、発見できるとても楽しい展示でした。「天心記念室」は、天心の書簡や遺品・天心のゆかりの画家の作品が展示されていました。

昼食は館内のレストランで、太平洋を眺めながら、海鮮丼の特製ランチをいただき、それから、天心夫妻の住まいだった「天心邸」・「天心記念館」・「六角堂」を訪ねました。「六角堂」は「観らん亭」とも言われ、海に突き出た断崖絶壁の上に建てられた六角形の茶室しつらえの東屋で、天心はここで海を眺めたり波の音を聞きながら、くつろいだり絵の構想を考えたり読書をしていたそうです。東日本大震災の大津波により流されてしまったそうですが、関係者の熱意により資金を集め、一年後に再建されたとのことでした。

5年ぶりの研修旅行でしたが、お天気にも恵まれ、帰りのバスの中では「楽しかったね」「おいしかったね」「またどこかに行きたいね」等の感想も聞かれ、友の会らしい和気あいあいとした充実した旅行で、予定通り午後5時には県立美術館に帰ってきました。(辺見)

**アート・
チャリティ・
バザー**
12月8日(日)

午前9時30分前、今年も会場となる美術館入り口には開館前から入場を待つ皆さんの列が出来、沢山の方に来場いただきました。収益も15万円余りとなり友の会活動資金として活用させていただいています。これからも賑わいの会場づくりにご参加よろしくお願いします。(関根)

**ミュージアム・
コンサート**
2025年
3月2日(日)

今年もNPO法人福島県立美術館協力会のご支援を受けて、早春の3月2日にコンサートを開催することができました。

福島市出身の伊藤利英子さん(チェロ)と会津若松市出身の増田みのりさん(ピアノ)が、バッハやサン=サーンスのクラシック曲とビートルズの曲の数々を演奏してくださり、アンコール曲「花は咲く」でコンサートを締めくくりました。演奏者のお二人は、1966カルテット(いちきゅうろくカルテット・1966年はビートルズ来日の年)のメンバーで、国内外で活躍をされています。

コンサートは当初、例年通りにエントランスホールで開催される予定でしたが、企画展「かがくいひろしの世界展」が週末特に、子供達で大賑わいであったため、講堂に場所を移すことになりました。急な変更にもかかわらず、講堂の220席は満席となり、多くの方に美しい演奏を楽しんでいただくことができました。(粟野)





福島県立美術館友の会

22年の歩み

2003-2025

2003年4月

設立発起人会

同 6 月

設立総会

福島県立美術館が開館 20 周年を迎えるにあたり、
友の会発足の機運が高まり 2003 年 6 月 18 日に
福島県立美術館友の会が産声を上げました。



友の会設立発起人会

同 11 月

第1回 研修旅行

岩手県立美術館での「ヴェネチアの光と影」展の鑑賞旅行が
研修旅行の始まりとなりました。そして 2024 年 11 月の
茨城県天心記念五浦美術館への研修旅行で 22 回目を迎えていきます。

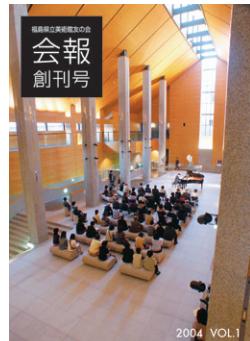


岩手県立美術館

2004年3月

友の会会報創刊号発行

会員数 230 名余りでスタートした
友の会の会報が、この年から発行開始。



会報創刊号

同3月

第1回 ミュージアムコンサート

美術館エントランスホールでのピアノコンサートが始まります。当時の観客は50人ほど。今や200人を超える観客のミュージアムコンサートになりました。



第1回ミュージアムコンサート

2005年6月

会員アンケート実施

「好きな作家」は順にルノアール、
フェルメール、ゴッホ。
常設展のお気に入り作家は
順にワイエス、斎藤清、関根正二。
こんな声をいただいていました。

あなたの好きな画家、またはジャンルを
問6 教えてください(3名まで)

ルノアール6 フェルメール6 ゴッホ5 シャガール5 モネ5
マチス4 ピカソ3 モジリアーニ3 東山魁夷3 ワイエス2
ダ・ヴィンチ2 バルテュス2 ブラマンツク2 ラトーリー2
閑根正2 有元利夫2 加山又造2 平山郁夫2 上村松園2
デユビュッフェ ミレー クレール ルオ ホックニー グレコ
ピサロ クーベル クラナハ ユトリオ モンドリアン ムンク
カンディンスキイ ギュスタフ・モロー ジャコメッティ ステラ
ミケランジェロ コロー 梅原龍三郎 安井曾太郎 中西利雄
小堀進一 村山鶴多 松本俊介 大山志作 片岡球子 千住博
長谷川利行 岩佐清 芝久竹三 横山大観 鶴賀高須
熊谷守一 中川一政 円山応挙 緋山南風 燕村 田中一村
小磯良平 熊田千佳暮 野見山晩治 山口草暉 松尾敏男
三岸節子 木村忠太 今井信吾 堀文子 小林和作 雪村
広田多津 佐伯祐三

印象派3 20世紀絵画、民族芸術 工芸品 水墨画 文人画
漆工芸 浮世絵 アフリカ・南米美術

友の会会報 3号

2005年11月

美術教養講座の開始

当館学芸員や外部講師を招き「ルーブルとパリの美術館を楽しむ」講座が始まりました。そして、それから10年後の2015年11月に友の会初めての海外研修旅行「パリの美術館7日間の旅」が行われました。



実技講座

2006年12月

実技講座が開始

友の会初めての実技講座は「フレスコ画を描く」絵画にかけては兵ぞろいの皆さんのが集合です！

2009年2月

研修旅行（三重県立美術館）

前年の三重県立美術館名品展で来福された三重の友の会ボランティアの方々との交流も兼ね、一泊研修旅行を実施。友の会の輪が広がりました。

同2月

美術映画鑑賞講座始まる

福島フォーラムご協力のもと、美術に関する作品を会員割引料金で鑑賞できる企画を開始。
第1回目は「真珠の耳飾りの少女」
(2003年ピーター・ウェーバー監督作品)でした。



同9月

第1回 アートチャリティーバザー

会員が楽しめる何か面白い企画はないか？
こんな話からアートチャリティーバザーが始まりました。第1回会場は美術館向かいの「福島大学如春荘」。現在は美術館エントランスホールで開催されていますが、この時も満員御礼の盛会となりました。



アートチャリティバザー

2013年7月

美術館運営へのボランティア参加の始まり

「若冲が来てくれました」展で来場者のクローケ係りのお手伝いをしたことがボランティアの始まりとなりました。会則にも「友の会は、美術を愛する人たちが集い、美術館の活動へ協力し、美術館の支援をしながら、会員どうしの親睦を深め、本県の文化の向上に努めます」と謳われています。これまで5回のボランティア参加を行いましたが、これからも楽しみながら貢献できるボランティア参加を行っていきます。

同12月

作家“原田マハ”さん講演会開催

友の会創設10周年を記念して
原田マハさんをお招きし
「ルソーって誰のことだろう。
『楽園のカンヴァス』とモダンアート」の
講演をいただきました。



講演会の原田マハさん

2015年2月

琵琶と手妻公演会

この年は「円空展」に合わせて、いつものミュージアムコンサートとは趣を変えて、江戸時代からの日本の手品「江戸手妻」を鑑賞。琵琶の音に合わせて手妻師藤山新太郎さんの扇子で舞う紙の蝶に見入りました。

同8月

夏の夕べのコンサート「シターの典雅な響き」開催

休館中の美術館を出て福島県文化センターで
ミュージアムコンサートを開催。

ルオー名作版画集「ミサレーレ」に囲まれるなかで、
中川啓子さんによるシター（フランスの教会楽器）の
音色に聞き入りました。



琵琶と手妻公演会

同11月

友の会初めての海外研修旅行

「パリの美術館7日間の旅」が行われました。

オルセー美術館ではマネの「草上の昼食」を
前に早川元館長の特別講義が行われました。



研修旅行



夏の夕べのコンサート

2019年2月

美術館へポータブルワイヤレスアンプ寄贈

アートチャリティーバザーの収益金で美術館に
ポータブルワイヤレスアンプを寄贈しました。

友の会ではこれまでにもバザー収益金でイーゼル等を
美術館に寄贈しています。ワイヤレスアンプは
今でもギャラリートークで大活躍中です！



寄贈式

2022年
7月～12月

美術鑑賞講座、アートチャリティーバザー、 ミュージアムコンサート再開

新型コロナウイルス感染症の拡大でしばらく中止
していた行事が再開。来場者もコロナ流行以前
にも増して元気に活動を再開することができました。
会員の皆様のご協力ありがとうございました。



アートチャリティバザー

THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦

2025年3月22日[土]—5月25日[日]

版元・渡邊庄三郎は、大正期に浮世絵研究と販売を行なうかたわら、同時代に通用する、美術品としての新たな木版画制作に取り組みました。国内外の新進気鋭の画家たちの作品を、彫師、摺師の協業のもと、複雑かつ華麗な彩色に「ざら摺り」など手摺りならではの技法を加え木版画にした「新版画」は現在でも高く評価されています。

本展では渡邊版の新版画の魅力と庄三郎の挑戦を伝えます。



川瀬巴水《東京十二題こま形河岸》1919年

金曜ロードショーとジブリ展

2025年7月19日[土]—9月28日[日]

「金曜ロードショー」はこれまで200回以上にわたってスタジオジブリ作品を放送してきました。その歴史はスタジオジブリが人気を確立し、作品の評価を不動のものとしていく足跡とともにあり、現在も続いています。番組の放送が始まった1985年は、スタジオジブリが“スタジオ開き”をした年であり、日本テレビが特別番組で「風の谷のナウシカ」を初放送した年です。本展ではそんな1985年を起点に、スタジオジブリ作品の公開年、そして「金曜ロードショー」で初放送された年がどんな時代だったのかを振り返りながら、映画の魅力に迫ります。



©Studio Ghibli

〈特集展示〉 絵画の臨界点
—若松光一郎、鎌田正蔵のフォルム—

2026年1月10日[土]—2月1日[日]

福島の洋画界を牽引した美術家、若松光一郎（1914-1995）と鎌田正蔵（1913-1999）の作品をご紹介します。二人は東京美術学校油画科で同時期に学び、卒業後も福島で活動を共にしました。戦後、新しい表現を模索する中で、若松はコラージュ技法を取り入れた作品を制作しはじめ、鎌田はユーモアのある視点で様々なフォルムを描きはじめます。

本展では、独自の絵画表現を追求してきた二人の創作活動の変遷について、当館の所蔵作品から振り返ります。



鎌田正蔵《小家族（A）》1981年
当館蔵

福島アートアニユアル 2025
site-representation 土田翔／鈴木悠哉

2025年6月7日[土]—29日[日]

本展は福島県出身・ゆかりの作家を紹介する「福島アートアニユアル」の第4回目になります。今回は土田翔（1997年生・福島市出身）と鈴木悠哉（1983年生・福島市出身）を紹介します。

土田は日本画家・小松均の「直写」の芸術論をフィールドワークによる制作手法に拡張し、独自の日本画を描く作家です。一方、鈴木は都市の中に見出した形態や構造を記号化した何枚ものドローイングを起点に、立体や映像を展開していく手法で制作しています。本展では異なるアプローチをとる二人の表現を通して、現代における場所を表象することの可能性について考えます。



上：土田翔《ENCOUNTER》2020年
下：鈴木悠哉《Reversible Garden》
(部分) 2024年

生誕140年 竹久夢二のすべて
画家は詩人でデザイナー

2025年10月18日[土]—12月14日[日]

京都・嵐山にある福田美術館所蔵の旧河村コレクションから、生誕140年を迎えた画家、竹久夢二（1884-1934）の作品をご紹介します。

画家であり、詩人、デザイナーでもあった夢二の「クリエイター」としての魅力に焦点を当てながら、《長崎十二景》や《青春譜》などの名作から、楽譜の表紙原画、小説や俳句に至るまで、夢二のすべてをご紹介します。



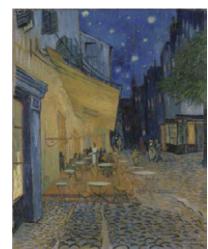
竹久夢二《長崎十二景 眼鏡橋》1920年
福田美術館蔵（旧河村コレクション）

福島県政150周年・東日本大震災15年
「大ゴッホ展 夜のカフェテラス」

2026年2月21日[土]—5月10日[日]

フィンセント・ファン・ゴッホは、大胆な色彩表現と力強い筆遣いを特徴とするポスト印象派の画家です。本展では、世界屈指のファン・ゴッホのコレクションを誇るオランダ、クレラー＝ミュラー美術館の名品を2期に分けてご紹介します。第1期はファン・ゴッホの絵画・素描計57点と、モネやルノワールなど同時代の画家たちの絵画17点で構成され、初期のオランダ時代から、パリを経て、南仏アルルに至るまでの彼の画業の前半に焦点を当てます。

※第2期は2027年6月開催予定



フィンセント・ファン・ゴッホ《夜のカフェテラス（フォルム広場）Terrace of a Café at Night (Place du Forum)》1888年
油彩 カンヴァス 80.7×65.3 cm クレラー＝ミュラー美術館
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands. Photography by Rik Klein Gotink

福島県立美術館友の会「会報」第23号 2025年8月発行 発行 福島県立美術館友の会 / 編集 舟木藤弘・関根裕子・栗原真理

◆お知らせ 友の会では会員を募集しています。会報への投稿も随時募集しております。



福島県立美術館友の会 <http://www.f-art.jp>

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 電話 024-531-5511 FAX 024-531-0447